

新年の始まりを祝う

鹿児島法人会(岩男秀彦会長)による新春恒例「児島市の鹿児島サンロイヤルホテル」で開かれた。約1000人が出席、無病息災で明るく平穩な年になるよう、新年の始まりを盛大に祝った。



鏡割りを行う岩男会長(右)ら
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

「冒頭、岩男会長が「納税による地域貢献とともに社会奉仕の精神を養いながら、今後も地元への安らぎを提供したい」と挨拶した。

次いで来賓の大西信彰事務局長、伊藤祐一郎県知事、森博幸市長が次々と登壇。「地域に根差した社会活動を続ける法人会の奉仕精神に敬服する。今後も地域のオピニオンリーダーとして活躍して

地域にふさわしい道づくりを進めよう」と、県大島支庁徳之島事務所(瀬田和人所長)はこのほど、地域住民らと「徳之島きゅらっか道づくり協定」を締結。大島郡徳之島町下志地区の緑化作業区域(植樹帯)にサインボードを設置した。



サインボードと写真に納まる参加者ら
＝徳之島町の現地で

このほど、合同協定に賛同した宇宿と新築の両支部に岩男会長から表彰状が手渡された。引き続き鏡割りが行われ、県中小企業団体中央会の玉利半三会長が乾杯の音頭を

きゅらっか道づくり協定 地域住民が美化活動

地域にふさわしい道づくりを進めよう」と、県大島支庁徳之島事務所(瀬田和人所長)はこのほど、地域住民らと「徳之島きゅらっか道づくり協定」を締結。大島郡徳之島町下志地区の緑化作業区域(植樹帯)にサインボードを設置した。

東郷会長は「ドライバ―の心が和めば」との思いでこれまで季節の花々を植栽してきた。会員も積極的に参加しており、協定を機にさらに地域の美化に励みたい」と抱負を語った。



優勝の報告を行う選手ら
＝鹿児島市の鹿児島実業高校で

選手ら盛大に出迎え
16年度第83回全国高等学校サッカー選手権大会で初戦の単独優勝を果たした鹿児島実業高校は11日、学校サッカ―選手権大会

賀詞交歓・交換会等

静脈産業として 存在感アピール

セメント業界

セメント業界新年賀詞交歓会がこのほど、東京都千代田区のパレスホテルで開かれた。岐島章男



挨拶する岐島会長

セメント協会会長は挨拶の中で、「資源循環型社会を支える静脈産業として積極的にアピールし、産業の存在感を高めていくことが重要だ」と訴えた。岐島会長は、昨年暮れに環境税が2005年度導入が見送られたことに触れて「今後も経済統制的な施策には断固反対していく所存」と、あらためて産業界の姿勢を確認した。同時に、既にセメント製造に廃棄物を活用していることを紹介し、「セメント1トン当たり400グラムを達成すべく具体的な取り組みを進めていく」と話した。



挨拶する多田会長

鋼材高騰等の 課題解決へ

鉄建協

鉄骨建設業協会(鉄建協、多田勝彦会長)はこのほど、東京都の東海大

歓迎会を開いた。多田会長は「協調と競争の精神を持って、鋼材高騰などの課題解決に取り組んでいく」と呼び掛けた。多田会長は鉄骨需要について、「15年度の680万トに対して、16年度は民間設備投資の回復など

を受け、80万トから100万ト程度に積み上げられるだろう」と述べた。一方、鋼材価格の高騰、納期の遅れに改善が見られないことを「資源インフレが進みつつあり、大きな問題」と指摘、あらためて会員に団結を求めた。



挨拶する木村会長

都市再生に伴う合流改善、老朽管渠改築など、社会が求める下水道の整備を進めていくため、さらに推進工法の普及と技術革新に取り組んでいく」と呼び掛けた。木村会長は「全国の下水道普及率は66・7%で、いまだ2700万人が受益していない。特に地方の市町村を見ると、普及率は33・9%にすぎない」と話した。



真剣に聴講する受講者ら
＝鹿児島市の県建設センターで

開かれた。資格取得を目指す25人の受講者は、3月13日の本番を前に過去の出題傾向や受験対策等について深く学んだ。12日は、芦田会計事務所(大阪府)の税理士芦田康史氏が講師を務め、建設業会計の基礎や期間損益の計算、資産の評価や財務諸表の作成等について、過去の出題傾向を踏まえて説明した。芦田氏は「合否のポイントは一問一答で正確に答えることにあり、特に精算表の計算は配点も高く重要で、過去の丸暗記でなく、なぜこんな解き方をするのか十分理解することが大切」と述べた。同講習は、1級財務分析が26、27日、同原価計算が2月2、3日の開催を予定している。

過去問踏まえ解説

県建設業協会

建設業経理事務士1級

講習会

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ